

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公開番号】特開2005-81838(P2005-81838A)

【公開日】平成17年3月31日(2005.3.31)

【年通号数】公開・登録公報2005-013

【出願番号】特願2004-248200(P2004-248200)

【国際特許分類】

<i>B</i> 4 1 J	2/525	(2006.01)
<i>G</i> 0 6 T	5/00	(2006.01)
<i>H</i> 0 4 N	1/46	(2006.01)
<i>B</i> 4 1 J	2/21	(2006.01)
<i>H</i> 0 4 N	1/405	(2006.01)
<i>H</i> 0 4 N	1/60	(2006.01)

【F I】

<i>B</i> 4 1 J	3/00	B
<i>G</i> 0 6 T	5/00	2 0 0 A
<i>H</i> 0 4 N	1/46	Z
<i>B</i> 4 1 J	3/04	1 0 1 A
<i>H</i> 0 4 N	1/40	B
<i>H</i> 0 4 N	1/40	D
<i>H</i> 0 4 N	1/40	1 0 4

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月24日(2007.8.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定のハーフトーン形成手順に従って生成されてハーフトーン形成された黒色ビットマップを、各タイルがマーキングされたピクセルカウント数Mを有するN個のピクセルで成るタイルとして、複数に分化し、

各N個ピクセルタイルについて、1のN個ピクセルタイルがハーフトーン形成された一様な領域の一部を構成するかどうかを判断し、

複数の前記N個ピクセルイメージタイルのそれぞれに関連する複数の、N個ピクセルの候補タイルから成る候補ピクセルアレイを生成し、該N個ピクセル候補タイルは、前記関連するN個ピクセルイメージタイルがハーフトーン形成された一様な領域の一部を構成し且つ前記関連するN個ピクセルイメージタイルにおけるマーキングされたピクセルの数が少なくともN個の所定の比率である場合にのみ、マーキングされたピクセルを含むものであって、マーキングされたピクセルを有する、幾つかのN個ピクセル候補タイルのマーキングされたピクセルの数は、前記関連するN個ピクセルイメージタイルのマーキングされたピクセルより少ないものであり、

前記黒色ビットマップにより識別されるピクセル位置に黒色を印刷し、

前記候補ピクセルアレイにより識別されるピクセル位置の選択された1つに非黒色カラーを印刷する、

ことを含む、印刷方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の方法において、マーキングされたピクセルを有する N 個ピクセル候補タイルが、ハーフトーン形成された一様な領域の一部を構成する関連 N 個ピクセルイメージタイルのサブセットを含むことを特徴とする方法。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の方法において、マーキングされたピクセルを有する N 個ピクセル候補タイルは、関連する N 個ピクセルイメージタイルのサブセットを含み、該関連する N 個ピクセルタイルが約 $0.8N$ より少ないマーキングされたピクセルを含む場合に、前記 N 個ピクセル候補タイルは、前記関連する N 個ピクセルイメージタイルより少ないマーキングされたピクセルを含むことを特徴とする方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の方法において、各 N 個ピクセルイメージタイルは、前記 N 個ピクセルイメージタイルがハーフトーン形成された一様な領域の一部を構成するとき採用される、関連するピクセル暗色化順序（ダーク化シーケンス）を含み、前記マーキングされたピクセルを含む N 個ピクセル候補タイルの各々は、関連するイメージタイルと実質的に同じピクセル暗色化順序でマーキングされ、前記 N 個ピクセル候補タイルの幾つかは、関連するイメージタイルより小さいダークレベルまでマーキングされることを特徴とする方法。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の方法において、N 個ピクセルイメージタイルがハーフトーン形成された一様な領域の一部を構成するかどうかを判断することは、N 個ピクセルイメージタイルを、該 N 個ピクセルタイルにおいて得られる元のデータの一部が一様な明度のものであるとした場合に該 N 個ピクセルタイルについての所定のハーフトーン形成手順によって生成されることになるハーフトーン形成二進数パターンを含む関連する N 個ピクセル基準タイルと比較することからなることを特徴とする方法。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の方法において、N 個ピクセルイメージタイルがハーフトーン形成された一様な領域の一部を含むかどうかを判断することは、N 個ピクセルイメージタイルを、該 N 個ピクセルタイルにおいて得られる元のデータの一部が一様な明度のものであるとした場合に該 N 個ピクセルタイルについての所定のハーフトーン形成手順によって生成されることになるハーフトーン形成二進数パターンを含む関連する N 個ピクセル基準タイルと比較することを含み、N 個ピクセル基準タイルが、比較される N 個ピクセルタイルと同じ数である、マーキングされたピクセル数 M を含むことを特徴とする方法。